

問題

《平安時代の政治》

次の史料を読み、下記の問に答えよ。

(25点)

問B
イ 元年七月二日、鳥羽院ウセサセ給テ後、日本国ノ乱逆ト云コトハヲコリテ後ムサノ世ニナリニケルナリ。(中略)城外ノ乱逆合戦ハヲホカリ。日本国ハ a 大友王子、b 安康天王ナンドノ世ノコトハ、日記モナニモ人サタセズ。大宝以後トイ、テソノ、チノコト、又コノ平ノ京ニナリテノ、チヲコソサタスルコトニテアルニ、(中略) c 将門ガ合戦モ、ロ^{問F}ガ貞任ヲセムル十二年ノタ、カイナドイフモ、又隆家ノ帥ノトウイコクウチシタガフルモ、関東・鎮西ニコソキコユレ。マサシク d 王・臣ミヤコノ内ニテカ、ル乱ハ鳥羽院ノ御トキマデハナシ。カタジケナクアハレナルコトナリ。e コノ事ノヲコリハ、後三条院ノ宇治殿ヲ心エズヲボシメシケルヨリネハサシシメタルナリ。

問A 上記史料の出典は何か。次の1～5の中から正しいものを1つ選び、番号を記せ。

(2点)

- 1 『吾妻鏡』 2 『百練抄』 3 『日本紀略』 4 『愚管抄』
 5 『小右記』

問B 上記史料のイに適する元号を記せ。(3点)

問C 下線部 a の「大友王子」との戦いに勝利して即位した天皇はだれか。(3点)

問D 下線部 b 「安康天王」は、中国の史料における「倭の五王」のうちどの王に比定されているか。(3点)

問E 下線部 c 「将門ガ合戦」以後に起こった出来事に関する文を、次の1～6の中から2つ選び、番号を記せ。(6点) → 939～940年

- 1 最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』が編まれた。→ 905年
 2 源信が『往生要集』を著し、念仏による極楽往生の方法を示した。→ 985年
 3 古代最後の勅撰国史となった『日本三代実録』が編まれた。→ 901年
 4 律令再建策を述べた意見封事十二箇条が醍醐天皇に奏上された。→ 914年
 5 皇朝十二銭の最後となった乾元大宝が铸造された。→ 958年
 6 左大臣藤原時平の下で、最初の荘園整理令が出された。→ 延喜の荘園整理令, 902年

問F 上記史料のロに適する人名を、次の1～5の中から1つ選び、番号を記せ。

(2点)

- 1 為義 2 義仲 3 頼信 4 頼義 5 義親

問G 下線部 d に関して、「鳥羽院ノ御トキ」以後に起こった出来事に関する文を、次の1～5の中から1つ選び、番号を記せ。(3点)

- 1 前上総介の平忠常が、房総地方で反乱を起こした。→ 後一条天皇の時
 2 沿海州地方の女真族が、対馬・壱岐・筑前に来襲した。→ 後一条天皇の時
 3 藤原道長が太政大臣に、藤原頼通が摂政にそれぞれ就任した。→ 後一条天皇の時
 4 平清盛が太政大臣となり、平氏は全盛期を迎えた。→ 後白河上皇の時
 5 尾張国の郡司・農民らが、国司藤原元命の悪政を31カ条に列挙して朝廷に訴えた。

→ 一条天皇の時

問H 下線部eに関する説明として誤っている文を、次の1～4の中から1つ選び、番号を記せ。(3点)

- 1 「宇治殿」とは、宇治平等院に鳳凰堂を建立した藤原頼通のことである。
- 2 「コノ事」とは、後白河上皇の近臣間の対立から引き起こされた内乱のことである。
- 3 「後三条院」は、1069年に延久の荘園整理令を発し、記録荘園券契所を設けた。
- 4 「コノ事」の根本原因は、「後三条院」が「宇治殿」から政権を奪い返したことでありと史料は述べている。

ポイント

頻出史料を用いて、古代の争乱と武士の台頭およびこれによる貴族政治の後退について問うた。まずは史料にざっと目を通し、キーワードが何かを見極めていくようにしたい。

今回は、私大入試でよく問われる、細かい年代の知識が必要な問題を出題した。年代を覚える際には、闇雲に1つ1つを暗記しようとするのではなく、まずは大まかな時期や前後関係を確実に把握することを心掛けてほしい。

解答

問A 4 問B 保元 問C 天武天皇 問D 興 問E 2・5 問F 4
問G 4 問H 2

解法

問B 空欄の後の「鳥羽院ウセサセ給テ後…ムサノ世ニナリニケルナリ」に注目する。「鳥羽院」の死後に起こり、その後「ムサノ世」、つまり武士の世になるきっかけとなった出来事は何かを考えよう。

問E・問G いずれも出来事の時期が問われる問題だが、細かな年代が求められる**問E**に対し、**問G**は大まかな時期やその時の為政者がわかれば判別できる。該当の年代がわからなくても、選択肢同士の前後関係などを考えて取り組むとよいだろう。

問F 空欄直後「貞任ヲセムル十二年ノタ、カイ」の「貞任」がだれかわかれば、「タ、カイ」が何であるか判別できる。

問H 史料読解と歴史知識の両面からアプローチして誤文を特定する問題である。選択肢のうち2・4は史料読解が必要だが、1・3は知識だけでも正誤判断が可能である。2の「コノ事」は、**問B**で問われているのと同じ出来事である。

🗨️ がポイント!

史料問題では、設問文や選択肢などにも史料の内容を判断するヒントが含まれている場合が多い。史料だけでなく問題全体に目を通し、史料の概要や時期に関するヒントはないか、また出題のテーマや何を問われているかを押さえた上で、史料の精読に取り組むとよいだろう。

史料

キーワード 「日本国ノ乱逆ト云コトハラコリテ後ムサノ世ニナリニケル」

出典 『愚管抄』

『愚管抄』は慈円による中世を代表する歴史書で、漢字カタカナ交じりの文が特徴である。引用部分では鳥羽上皇死後の保元の乱によって「ムサ（武者）ノ世」が訪れたことを述べ、古代の壬申の乱以後の争乱について具体的に言及している。そして、こうした事態に至った原因は、後三条天皇の治世にあることを述べている。

解説

問A 史料の項を参照。

問B 1156（保元元）年、鳥羽上皇が死去すると、朝廷の実権を握れず不満を募らせていた崇徳上皇は、摂関家の藤原頼長と結んで源為義・平忠正らの武士を動員した。一方、後白河天皇は源義朝・平清盛らを動員した。この保元の乱は後白河天皇方が勝利したが、政争が武士の実力によって決着したことで、時代の転換を印象づけることとなった。

問C 天智天皇の皇子である「大友王子（皇子）」を672年の壬申の乱で破った大海人皇子は、673年に飛鳥浄御原宮で即位して天武天皇となった。

問D 『安楽天王（天皇）』は、『宋書』に載る倭の五王（讚・珍・済・興・武）の中で、「興」に当たるとするのが定説である。

問E 935（承平5）年に所領問題で伯父平国香を破った平将門は、939（天慶2）年に反乱を起こして関東一帯を攻略した。下総の猿島に拠り、“新皇”を称したが、940（天慶3）年、国香の子平貞盛と藤原秀郷によって討たれた。この平将門の乱と、同時期に西国で起きた藤原純友の乱を合わせて承平・天慶の乱という。この乱を間に挟んで、選択肢1～6の事項を時代順に並べ直すと、次の表ようになる。

▼ 10世紀の出来事

年代	出来事
901	『日本三代実録』編纂
902	延喜の荘園整理令発布
905	『古今和歌集』編纂
914	三善清行意見封事十二箇条奏上
939	承平・天慶の乱（～941）
958	乾元大宝鑄造
985	源信『往生要集』成立

問F 安倍貞任の父安倍頼時は俘囚の長として東北地方に勢力を広げていたが、1051（永承6）年に反乱を起こした。この前九年の役は、源頼義・義家父子によって1062（康平5）年に鎮圧された。

✔ここもチェック

伊予掾であった藤原純友は、伊予に土着して海賊の棟梁となり、瀬戸内海の日振島を拠点として939（天慶2）年に乱を起こした。

✔図表のここに着目

10世紀の醍醐（位897～930）・村上天皇（位946～67）の治世は、後世延喜・天曆の治と呼ばれた。この時期は、律令制再建がはかられるも行き詰まりが明らかとなり、地方では武士の反乱も起きていることに着目しよう。

問 G 鳥羽天皇は 1107～23（嘉承 2～保安 4）年の間在位し、1129～56（大治 4～保元元）年に院政を行った。平清盛の太政大臣就任は、後白河上皇治世下の 1167（仁安 2）年のことである。

問 H 藤原道長の後を継いだ「宇治殿」（＝藤原頼通）は、約 50 年もの間、摂政・関白に在職したが、入内させた自分の娘には次の天皇となるべき皇子が生まれず、1068（治暦 4）年には関白の座を弟の藤原教通に譲った。このため、同年には摂関家を外戚としない後三条天皇が出現した。下線部 e は、後三条天皇が摂関家から政権を奪ったことが、「コノ事」すなわち保元の乱の根本原因になったことを意味している。